

セント・ピーターズバーグ市市制100周年記念 市民親善使節団訪問報告書

平成15年6月4日(水)～6月11日(水), 8日間
(2003年)



CITY OF ST. PETERSBURG



Takamatsu International Association
財団法人 高松市国際交流協会

目 次

I 団 員 名 簿	1
II 日 程	2
III 概 要	3
IV 使節団の活動状況	7
V 感 想 文	13
VI 資 料 編	30

姉妹都市セント・ピーターズバーグ市への市民親善使節団名簿

団 長	角 田 富 雄	(財)高松市国際交流協会理事 (高松市総務部長)
団 員	杉 上 房 枝 (天弘)	三味線演奏者
団 員	門 野 美栄子	三味線演奏者
団 員	竹 野 安 子	ピアノ演奏者
団 員	小笠原 和 子	民踊演舞者
団 員	安 井 冷 子	民踊演舞者
団 員	広 瀬 由美子	民踊演舞者
団 員	富 岡 ふさえ	民踊演舞者
団 員	上 池 艶 子	民踊演舞者
団 員	松 岡 久美子	民踊演舞者
団 員	末 澤 保	盆栽技術者
団 員	松 田 三 男	盆栽技術者
団 員	松 田 多 恵	一般参加者
団 員	合 田 洋 子	一般参加者
団 員	片 山 美代子	一般参加者
団 員	片 山 由利子	一般参加者
団 員	陶 山 美紗子	一般参加者
団 員	高 木 智 子	一般参加者
事務局	藤 本 良志美	(財)高松市国際交流協会常務理事・事務局長

日 程

2003年6月4日(水)～6月11日(水)8日間

	月日	地名	現地時刻	交通手段	スケジュール
1	6/4 (水)	高松発 関西空港着 関西空港発 サンフランシスコ着 サンフランシスコ発 オーランド着	9:00 12:30 14:55 8:40 11:15 19:15	専用バス UA810 UA292 専用バス	専用バスにて関西空港へ 空路、サンフランシスコへ ((日付変更線)) 入国手続き 空路、オーランドへ 到着後、専用バスにてセント・ピーターズバーグへ 【ホテル：ホリデーイン・ヘリテージ泊】
2	6/5 (木)	セント・ピーターズバーグ	7:45 9:00 16:00 18:00		セント・ピーターズバーグ市役所で朝食バイキング(セ市関係者と一緒に) セ市長、議長を表敬訪問 於議場 老人福祉施設にてピアノ、民謡、三味線披露 マリン・サーチセンター見学 ホテルへ帰着(ラフな服装に着替え) サンキングガーデンにて記念植樹、盆栽実演 子供科学館見学 歓迎レセプション 於サンキングガーデン 【ホテル：ホリデーイン・ヘリテージ泊】
3	6/6 (金)	セント・ピーターズバーグ	8:00 9:30 18:00		ホテルにて朝食 ダリ美術館、小児科病院、トロピカーナ球場、スカイウェイ大橋等見学 高松市主催答礼宴(民謡、三味線披露) 於ディケンズ・ハウス 【ホテル：ホリデーイン・ヘリテージ泊】
4	6/7 (土)	セント・ピーターズバーグ タンバ発 シカゴ着 シカゴ発 ラスベガス着	8:00 9:00 15:00 17:21 19:04 19:55 21:47	専用バス UA515 UA711	ホテルにて朝食 ザ・ピアでの百周年記念事業に参加(ピアノ、民謡、三味線披露、盆栽実演) ザ・ピア出発 タンバ空港へ 空路、シカゴ経由ラスベガスへ 【ホテル：モンテカルロ泊】
5	6/8 (日)	ラスベガス			朝食後自由行動 ★オプションツアー ・ グランドキャニオン終日観光 ・ ラスベガスディナーショーなど 【ホテル：モンテカルロ泊】
6	6/9 (月)	ラスベガス発 サンフランシスコ着	9:35 11:00	UA385	空路、サンフランシスコへ 着後、サンフランシスコ市内観光 (ゴールデンゲートブリッジ、 フィッシャマンズワーフ、ツインピークス) お別れ夕食会(中華料理) 【ホテル：サンフランシスコヒルトン泊】
7	6/10 (火)	サンフランシスコ発	11:50	UA809	空路、帰路の途に 【機内泊】
8	6/11 (水)	関西空港着 関西空港発 高松着	15:30 16:30 20:00	専用バス	入国手続き(関西空港) 専用バスにて高松へ 解散式(高松駅付近)

セント・ピーターズバーグ市の概要

1. 人口 251,000人 (2001年)
2. 面積 148.48平方km
3. 地勢

フロリダ半島の中央部西海岸に位置し、海拔2～5mの平地のみで湿地帯はない。南部はメキシコ湾を望み、大小の入江、広く長く続く砂浜及びコバルト色の海のコントラストにより風光明媚で、東部はタンパ湾があり、ハワード・フラン克蘭ド橋、ガンディー橋でタンパ市へ通じる。

また、市内外にセミノール湖、マジョレ湖などの大きな湖がある。

東経 82度38分 北緯 27度46分

4. 都市の性格

サンシャイン・シティと言われるほど気候的に恵まれ、フロリダ州第2番目の避寒保養地であり、ピネラス・カウンティ (ピネラス郡) の中心都市。

5. 気候

亜熱帯気候に属し、温暖である。

年間平均気温 23.3℃ (1月平均21.1℃ 7月平均26.6℃)

年間降水量 134.9mm

年間日照日数 361日

6. 交通

道路：タンパへ 30分

オーランドへ 1時間30分

飛行機：タンパ空港からマイアミへ 1時間

ニューヨークへ 1時間30分

ロサンゼルスへ 5時間

セスナ機専用のアルバートウィッティド空港がある。

船：観光船やクルーズの船が出ている。

2～3日でバハマやカリブ海へ行く事ができる。

7. 沿革

16世紀頃、ヨーロッパからの探検隊がフロリダに上陸し、金を探し歩いた。セント・ピーターズバーグ市にも、有名な探検隊長の名であるデソートと呼ぶ素晴らしいビーチパークがある。1879年、ジョン・ウィリアムス氏が、気候の良い健康的な場所に住むため、デトロイトからセント・ピーターズバーグに移り住み、その彼の援助を受け、ロシアからの移民であった鉄道事業家のピーター・ディーメンズ氏がこの地域の発展に尽くした。ディーメンズ氏の故郷が、ペテルスブルグ (前のレニングラード、英語読みでピーターズバーグ「現在のサンクトペテルブルグ」) であったことから、セント・ピーターズバーグと呼ばれるようになり、1888年に市制を施行した。1885年にアメリカ・メディカル・アソシエーションにより、最も健康的な場所として公表され、引退・退職者の憧れの地となっている一方、フロリダ州において、隣りのタンパ市に次いで急成長しており、若者の人口も増加しつつある。

8. 主な観光地・施設

[ピ ア]

ピアは（棧橋）は、タンパ湾につき出た船着場であったが、現在では、ウォーターフロント開発により、観光名所となっており、棧橋先端にある逆ピラミッド型の建物の中に、ギフトショップ、水族館、レストラン等がある。あたりには、市のシンボルであるペリカンがたくさんたわむれている。

[セント・ピーターズバーグビーチ]

メキシコ湾沿岸に3 km 余りもつづく魅力的な白浜の海岸サンコーストビーチの一部が、セント・ピーターズバーグビーチである。冬には、ヨーロッパやカナダなどからの観光客でにぎわい、美しい風景と輝く太陽が人々を魅了する。

[トロピカーナ球場]

1990年春にオープンした野球や各種イベント用のドーム。ケーブルを張り渡す方法で建てられており、この種のドームでは全米唯一であり、世界一大きいと言われている。野球のメジャーリーグ、タンパベイ・デビルレイズの本拠地でもある。

収容人員 45,360人

[アラン球場]

セントルイス・カージナルス、ニューヨーク・メッツの春季トレーニング場、その他の3 A、2 Aの公式野球場。市のお祭のパレードにも使用される。

収容人員 25,000人

[ベイフロントセンター]

音楽会、ブロードウェイなどのショーに使用される公会堂。2,300席

2階にはバスケットボール、アイスホッケー、インドアサッカー、サーカス、また、大きなコンサートに使用される。6,000席

[サンシャインスカイウェイブリッジ]

市の南端から海上を渡り、サラソタ市へ通じる橋。1980年5月、朝のラッシュ時に貨物船が橋脚にぶつかり、橋が落ちたため、新しく建造し、1987年4月に開通。

大変美しいケーブルの斜張橋で、全長4.1マイル（6.56km）。

[ダリ美術館]

スペインの画家、ダリのアメリカ最大のコレクションであり、ダリの大作と言われるものの4分の1が所蔵されている。1982年に、モース夫妻の寄贈によるコレクションで、クリストファー・コロンブスのアメリカ発見、幻覚剤闘牛士などの大作が鑑賞できる。

[セント・ピーターズバーグ美術館]

中世期の絵画、彫刻、装飾芸術などが展示され、主に、ヨーロッパ、アメリカ、南米のコロンビア、東南アジアの芸術家の作品が多い。

[ハス美術館]

初期のフロリダの建造物、古い時代のかじ屋、鉄道駅、写真屋、歯科医院、美容院などを再現している歴史博物館。

[サンクンガーデン]

沈没地に水が溜まって池となっていた土地を庭園に作り上げたもので、観光名所となっている。おとぎ話のジャングルのように、色とりどりの南国の鳥や花、そして木々が茂る美しい庭園である。

[バイセンティニアル公園]

ピクニックコースの道、海岸通りの散歩道、自転車道、釣り場、円形演技場などがある。その他、州最大の610隻ものボートを有する市立マリナー、ユニークなボイド・ヒル公園、8つの公立プール、5つの公共海水浴場、18のレクレーションセンターと6つの公立図書館がある。

9. 産業

農業…柑橘類、特にオレンジ栽培が盛んである。

水産業…地形的に魚介類は豊富である。

工業…市内中心部に僅かながら工業地帯があるが会社は少ない。

商業…人口増加とともに需要が年々増加し、商店街が2か所、デパート24か所および金融基間71か所を数える。

10. 教育（ピネラス群全体）

学制は、小学6年、中学校3年、高等学校3年、大学4年である。

小学校	76校	中学校	21校	高等学校	15校
教会附属学校	72校	職業学校	11校	大学	4校

11. 医療

病院数 9件

引退・退職者が数多く移り住むことから、医療関係サービス業が発達している。

12. 福祉

セント・ピーターズバーグ市は、65歳以上の老人が全人口の25%以上を占めており、老人福祉施設は多い。市において、老人に関する各種のサービスが行われている。給食サービス、案内、照会、学習、看護相談、雇用サービスなど。

また、幼児の託児所・保育所は24か所ある。

(ほとんどが2歳～6歳。1歳から受け入れる所は4～5か所。)

13. スポーツ

フロリダは昔から、野球（大リーグ）のスプリングトレーニングの地として知られており、これまで数々のチームが訪れている。

トロピカーナ球場（ドーム野球場）も完成し、気候に関係なく年間を通して野球が楽しめる。メジャーリーグ、デビルレイズが地元で誕生し、活躍している。ダウンタウンにはヨットハーバーがずらりと並んでおり、ボートショー、ボートパレードやヨット競技大会が開催される。ゴルフコースも10数か所ある。

14. 祭り

毎年3月頃に、約90年の歴史を持つフェスティバル・オブ・ステーツと呼ばれるフロリダ州の祭りがセント・ピーターズバーグ市で開催され、数日間に渡って夜のパレード、コンサート、スポーツのコンペ等が盛大に繰り広げられる。

セント・ピーターズバーグ市が広々とした美しい土地であることから、文化人が集っており、アート&クラフトのショーも多い。毎年5月には、メインセールと呼ぶ、腕をふるった美術家のフェスティバルがある。

また、海に面していることからシーフードにも恵まれ、冬の入り込み客の訪れはじめる10月頃になると、シーフードに関したいろいろなフェスティバルが開催される。

15. 高松市とセント・ピーターズバーグ市との交流

○姉妹都市派遣留学生（昭和37年度から実施）

高松一高等教員 延べ 24人

高松市職員 延べ 19人

○姉妹都市親善留学生（平成2、3年度実施）

高松市民 2人

○姉妹都市親善研修生および親善使節団（平成4年度から実施）

高松市民 延べ 22人

○姉妹都市招へい教師（昭和41年度から実施）

招へい教師 延べ 37人

○高松一高国際英語コース生徒海外研修（昭和60年度から実施）

○高松一高への短期留学生（昭和59年度から受け入れ）

高校生 延べ 22人

○中学生海外親善使節団の派遣（平成元年度）

○青年海外親善使節団の派遣（平成2年度）

○姉妹・友好都市フェア等への参加（平成2年度）

市制100周年を記念して高松で開催した姉妹・友好都市フェアにセント・ピーターズバーグ市から物産等の出展、各種イベントへの参加

○姉妹校 二番丁小学校とマキシモ小学校

○エッカード大学教授団来高（平成5、6年度）

○セント・ピーターズバーグ市代表団来高（平成5、7、10、13年度）

○セント・ピーターズバーグ市少年野球チーム来高（平成13年度）

○高松市代表団、高松市民親善使節団セ市訪問（平成11、15年度）

○市内の国際交流団体の相互訪問

これまで数多くの市民レベルの親善訪問、交流が行われている。



サルバドールダリ美術館

使節団の活動状況

6月4日(水)

午前9時00分

公式訪問団8人、市民親善使節団19人は、高松市長や議長など大勢の方々のお見送りを受けて、元気に高松を出発した。

午後7時10分

フロリダ州オーランド国際空港に到着。外は雨。ここからバスで約2時間かけてセント・ピーターズバーグ市へ。ホテル、ホリデーイン・ヘリテージには、夜遅い時間にもかかわらず、セント・ピーターズバーグ市国際交流担当のバージニア・ローエルさんや市議会議員さんたちが出迎えてくださった。



増田市長への出発のあいさつ

6月5日(木)

午前8時

セント・ピーターズバーグ市庁舎内の会議室で、市の幹部の方や市議会議員さんたちと共に朝食会。これは私たちにとっては初めての楽しい経験。その後、市議会議場で訪問団員が紹介され、ベイカー市長とウィリアム議長から一人一人に記念品をいただいた。

午前10時

市内のパームリタイアメントセンター（老人福祉センター）を訪問。30数人の入居者が待ち受ける部屋で、ピアノ、三味線、民踊を披露して大変喜ばれた。その後、広くて介護も行き届いたセンター内を見学する。入居しているシニアの人たちは、にこやかで幸せそうに見える。センターのレストランで入居者の方々と一緒に昼食の後、盆栽師2人は、サンキンガーデンで盆栽の剪定実演へ。

午後2時

マリン・リサーチセンター（海洋研究



リック・ベイカー市長からあいさつを受ける
後方はウィリアム議長



セント・ピーターズバーグ市役所玄関で

所)を見学。稚魚の養殖や赤潮の対策研究の説明を受ける。海に面している香川県も赤潮によるハマチ養殖の被害があり、両市の共通の問題が赤潮対策である。

午後5時

サンキングーデン(植物園)に付属のエキスポレイション(こども科学館)を見学の後、公式訪問団も一緒にベイカー市長たちとの記念植樹に参加した。つづいて、セ市主催の歓迎パーティがあり、セ市の若者たちによる伸びやかな歌やピアノの演奏があった。また、前市長フィッシャー夫妻をはじめ、今年の夏高松に来る高校生たちも出席していて、なごやかな雰囲気の中での交流を楽しんだ。



日本風の「おみやげ」はとても好評でした



「お祭マンボ」などのピアノ演奏



日本の楽器、三味線披露



飛び入りも出る
「一合まいた」の民踊



マリン・リサーチセンターで赤潮対策などの説明を受ける



セ市主催パーティで「屋島の絵」を贈呈

6月6日(金)

午前9時30分

ダリ美術館

スペインの偉大な画家サルバドール・ダリはアメリカ滞在中に多くの大作を描いた。ダリの絵画の四分の一がセント・ピーターズバーグ市のダリ美術館に所蔵されている。少し難解なシュールレアリズムのダリの作品を、キャシー・プランタムラさんのわかり易い解説でゆっくり見学した。



ダリ美術館前で

午前11時

オールチルドレンズ・ホスピタル（小児科病院）ハンバーグのマクドナルド社がその多くを出資して設立されている小児科病院は、フロリダ州だけでなく全国や海外から多くの患者が治療に来ている。小児科病院の傍には、入院している子供の家族が無料で泊まれるハウスがあり、ボランティアが大勢携わっている。入院患者の子供たちのための音楽療法として活用するため、ピアニストの音楽と民踊がビデオ撮影された。



小児科病院中庭の子供像
作家は日本人、シュー・山本氏

午後2時

アメリカンメジャーリーグの野球チーム、デビルレイズの本拠地・トロピカーナー球場を外から見学。早く最下位から脱出して欲しいと願う。その後、長さ6.6kmのサンシャイン、スカイウェイブリッジをバスで渡り、海の上を滑るような橋を体感した。

午後6時

ディケンズ・ハウスで答礼宴。

民踊、三味線の披露をして招待客に大変喜んでいただいた。菰渕副議長の尺八が飛び入りしたり、ベイカー市長も「一合まいた」の輪に入り、宴を盛りあげてくださる。姉妹都市委員長・エマニエル・ルー氏のレストランからのケータリングの食事は最高。

午後9時

有志十数人が、バージニアさんとスティーブさんの案内でダウントウンの音楽イベントを見物に行く。今日6月6日がセ市の本当の百周年記念日で、街は音楽イベントと若者達や出店であふれ、歩くのも大変なぐらい賑わっている。



答礼宴を催したディケンズハウス



ディケンズハウスでのおごちそう



リック市長も踊りの輪の中に



ディケンズ・ハウスでの三味線演奏

6月7日(土)

午前10時

盆栽師2人は、ピア（棧橋）の屋内で盆栽の実技披露。セント・ピーターズバーグ市盆栽愛好家のグループに大好評で記念品までいただいた。

午前11時

ピアのレストラン「コロンビア」での百周年昼食パーティーの席で、団員のピアニストによる演奏の時、ベイカー市長のお嬢さんが飛び入りで可愛い連弾を披露した。



宿泊したホリデーイン・ヘリティジの前で



ザ・ピアから見たセント・ピーターズバーグ市街



ザ・ピアのレストランで市長の家族と共に



盆栽実演で質問する愛好者達



大好評の盆栽師に記念品が贈られました

午後1時

ピアの1階のホールで式典。セ市の100歳を祝うバースデイケーキを、ベイカー市長と訪問団長達によって、ケーキカットが行われ、来館者皆んなに振舞われた。これは大変楽しく面白いもので、高松も取り入れたい企画であった。



市民の人たちも一緒に「一合ました」



かわいらしいロシアの踊り

午後1時20分

ピアの1階演芸ホールでロシア民踊などにつづいて、民踊と津軽三味線を披露して大きな拍手をいただいた。

セント・ピーターズバーグ市での3日間は、団員みんながそれぞれの役割を果たした充実感を味わい、午後3時に、姉妹都市に別れを告げた。

午後5時10分

タンパ国際空港からシカゴ経由でラスベガスへ

6月8日(日)

午前9時～

オプションツアー参加者はグランドキャニオンへ。数億年におよぶコロラド河の侵食と地層の隆起作用によって造り出された大渓谷の地層に驚嘆。その他の団員は家族で楽しめるラスベガスのアミューズメントを見学。

午後6時

オプションツアー参加者は、ホテル「リビエラ」のショーやフリーモント・ストリートのアーケードで210万個の光のイルミネーションショーを見学。



ラスベガス空港で



ゴールデンゲイト・ブリッジで



グランドキャニオン

6月9日(月)

9時35分

ラスベガス発

サンフランシスコでは、バスのパンクという災難があったが、皆元気にフィッシャーマンズワーフで海鮮パスタの昼食。映画で有名なゴールデンゲイトブリッジ見学。小高い丘ツインピークスから三方海に囲まれたサンフランシスコを展望は、すばらしかった。

夕食——お別れ夕食会（中華料理）。

団員全員が、今回の旅行は大いに実りあるものであったと実感した。



旅行最終日、団長を囲んで3・3・7拍子の解散式

6月10日(火)

11時15分

サンフランシスコ発 公式訪問団と一緒に帰国の途に。

日付変更線を通過

6月11日(水)

15時30分

関西空港に無事到着

専用バスで高松へ向かう。高速道路のサービスエリアで食べた「さぬきうどん」はなつかしい味でした。

20時00分

高松着——解散式 皆さん本当にお疲れ様でした。 see you again.

セント・ピーターズバーグ市で出会った人たち



ゆかた姿で歓迎してくれた高校生たち



子供科学館での子供たち



アメリカ国旗のネクタイのバス運転士と息子さん

感 想 文

団員の皆様に感謝

団長
角田 富雄

アメリカの最初の到着地サンフランシスコ空港。ここではじめて味わう「靴脱ぎ検査」の歓迎を受けた。いくらテロ対策とは言え、荷物検査で靴まで脱ぐとは。

10数時間という飛行時間であったが、初めてのアメリカ訪問と言う期待と不安が交錯し余り眠れないままに、セント・ピーターズバーグ市への到着となった。太陽の町には珍しく激しい雨が我々を出迎えてくれた。

翌日、いよいよ最初のセレモニーとなった朝食会。緊張の中での市役所到着。しかし、その緊張もすぐに取れてしまった。ベイカー市長をはじめ、副市長、議長等皆さんの、笑顔で親しみを持った出迎えが我々にどれほど安心感を与えてくれたことか。「よし、多くの交流事業も必ず上手くいく。」と確信したのである。

その確信通り市議会議場での表敬挨拶、老人福祉施設訪問、サンキンガーデンでの記念植樹、ウェルカムレセプション、ダリ美術館や小児科病院の視察、高松市主催の答礼宴、そして今回のメイン行事となったセント・ピーターズバーグ市市制100周年記念式典の参加と数多くの行事も上手くいったのである。

この間、我々市民親善使節団の活躍はすばらしいものであった。パーム・リタイアメント・センター（老人福祉施設）でのピアノ、民謡民舞、そして津軽三味線の披露は、入所者の皆さんから絶賛を受けた。

そして小児科病院での演奏も然り、答礼宴での和気藹々としたパフォーマンス。

極めつけは、昼食会のピアノや式典の踊りでも、飛入りが出るほどの盛況で喝采を浴びた。

また、盆栽師の活躍も特筆すべきであった。厳しい材料に悪戦苦闘、見事に2回のデモンストレーションを成功させ、アメリカの盆栽愛好家達を魅了した。下手間の私が汗を流して頑張ったことがそうだったかどうかは？

このように使節団一致団結しての交流は、多くのセント・ピーターズバーグ市民に感動を与え、長い交流の中でひとつのすばらしい足跡を残すこととなった。

今回の訪問を機に、今後さらに両市の交流の輪が大きく広がることを確信しつつ、高松市市民親善使節団の任務を終えることとした。

団員の皆様には、SARSやイラク戦争の関係で団員募集の期間が大変短い中で、無理なお願いにもかかわらず快く参加戴いたことにたいし厚くお礼を申し上げます。また多くの交流事業にも大変な協力を戴き感謝しております。このことを機に、我々団員の輪がいつまでも続くことを願っております。



ベイカー市長夫人と記念植樹



副市長のエルストーン女史にあいさつ

セント・ピーターズバーグ市長と三味線談義

三味線演奏者
杉上房枝
(天弘)

今度、私は、8日間の日程の中、三味線演奏者としてセント・ピーターズバーグ市に使節団として参加いたしました。

以前より、アメリカへの想いは強く、いつか三味線を持ってアメリカへと……ずっと想い続けておりました。このお話を戴きました時には、まるで夢の様に2つ返事で“行きます”と。素直にうれしく興味深く想っておりました。

そんな想いの中、アメリカに着き、3日間は市長・議長表敬訪問、老人福祉センターなどのスケジュールの中、アメリカの人々との交流、演奏活動でした。

この機に日本文化である三味線を多くのアメリカ人に聴いて頂けました事が、何よりも私の夢の実現でした。

この3日間で一番心に残ったのはレセプション・答礼宴での演奏でした。場所的には狭く小人数の中ではありますが、私は個人的に私を、又、日本の三味線音楽をアメリカの方々に理解してもらいたいとの強い想いの中で、演奏をしましたところ、ベイカー市長さんが三味線に対して強く興味を持ってくださり、演奏後には、楽器の説明と体験をされたりと、本当に今度はアメリカに来たかいがあったと、参加した事に、また、お話を頂きました事に深く感謝しております。

本当にアメリカの旅は、三味線人生の中での大きな思い出と勉強になりました。



ベイカー市長に三味線を説明



ギターが趣味のベイカー市長が三味線に挑戦

私の人生にプラスになった旅

三味線演奏者
門野美栄子

今回、市民親善使節団に参加させていただいてまず驚いたことは、アメリカという国があまりにも広いということでした。

初めての海外で、しかも三味線と大きな荷物を持つての移動でかなり疲れたのは事実です。でもそれに変えられないような様々な体験をさせていただき、私の人生の中でとてもプラスになったと思っています。

自分が今志している三味線で参加させていただけた事、色々な方々と一緒にさせていただけた事など……。素晴らしい時を過ごす事ができたと思っています。

アメリカの人たちに三味線を、実際に目で見て、耳で聴いて、触れていただけた事。

今回の演奏では、反省する事ばかりでしたが、これからもっと勉強をして、自分なりに納得いく三味線を弾いていきたいと思っています。

貴重な体験をさせていただけた事、感謝しています。

ありがとうございました。



小児科病院の子供像と一緒に読書



ダウンタウンで行われた百周年イベントを見学にいきました。

ピアノを通じての友好交流

ピアノ演奏者
竹野安子

この度、初めて市民親善使節団にピアニストとして参加させて頂きましたことを、大変光栄に感じ、心より感謝申し上げます。また、母と共に参加できたことも、とても貴重で有意義な思い出となりました。

ピアノの手配においては藤本様にご尽力いただき、大変お世話になりました。

選曲については、国内でのコンサートとは違っていろいろ思案しましたが、急きょセント・ピーターズバーグ市長のお嬢様との連弾演奏も行い、無事に終了しほっとしております。

セント・ピーターズバーグ市は、とても穏やかで時間がのんびりと流れているような街でした。セント・ピーターズバーグでの藤本様の信頼は絶対的なものがあり、日米の友好関係というものは、一人ひとりの信頼関係によって点と点とが線になり球ができあがるようなものだと感じました。もちろん私自身このような親善使節団に参加するということが友好に少しばかりは役立ったのではないかと思います。米国のみならず、あらゆる国の人々一人ひとりと信頼関係を結び、本来の外交感覚を身につけたいと思います。

高松市議会議員の先生方と合流する機会がありましたが、本当に高松市をよりよくするために日々お考えで、人格も素晴らしい方々でした。身近に接することができ、嬉しく思います。また、我々市民使節団が和やかに楽しく滞在できたのも団長の角田部長様のお気遣いのおかげと深く感謝致します。参加された皆様方とのすばらしい出会いも私の財産となりました。

今、日本は不況といわれておりますが、外側から日本を見てみると誇るべき多くの面が再発見できます。日本人は穏やかで心優しく、仕事も丁寧で勤勉です。自分が日本人であることに誇りを持ち、その上であらゆる国々との親善を深めることが大切であり、次世代にもそのことを伝えていくべきであると考えます。

現在高松市ではサンポート開発を中心にハード面での成長が見られますが、次世代を担う子供達が高松市に誇りを持ち、優秀な人材に育成され、国内外から多くの人々が訪れるいっそう魅力ある市に発展するようソフト面での成長を期待し、自分自身も努めます。



市長の娘さんと連弾



ザ・ピアでの懇談

着物で通した姉妹都市交流

民踊演舞者
小笠原 和子

高松市国際交流協会の方から、セント・ピーターズバーグ市で市制100周年のお祝いの文化交流をするために参加してほしいとお話があり、私はまだ一度もアメリカへ行った事がなかったので、是非、行きたいと返事しました。

高松市民踊協会「たちばな会」の有志6名と、津軽三味線の天弘先生を始め、合計8名での参加となりました。本来なら協会長の松岡先生（私の母ですが）が、もう一度、アメリカへ行きたいと強く希望していたのですが、体の調子がいまいちで、お医者様から止められてしまいましたので、私が踊りの方を担当する事になりました。

出発する時より着物を着ての参加、気が張りつめていましたので、長時間の飛行機もあまり苦もなく、楽しく皆でワイワイと言っているうちに、セント・ピーターズバーグ市への到着となりました。セント・ピーターズバーグ市での第一印象、緑豊かで道路がとても広く、ゆったりとした街の景色でした。アメリカは何事も大きいの一言でした。市長様もとても背の高い方、でも、私達と気軽に写真をご一緒したりして記念になりました。他の市議の先生方とも、夜の100周年を祝うストーリーでお会いしても気軽に声をかけてくださったりと。セント・ピーターズバーグ市での4日間はもちろん、朝から夜まで着物で過ごさせていただきました。お陰様で日本にご縁があった方、日本に住まれてた方などから気軽にお声をかけていただき、とてもうれしかったです。着物を着ていると小さな子供さんから「チャイニーズ？」「ノー。ジャパニーズ」とあまり知らないカタコトの英語で会話して。人と人との交流、とても楽しかったです。

私共、本来の使命である踊りや三味線を通して現地の方々との文化交流。老人福祉施設、小児科病院での慰問、ピアでの100周年のお祝いに花を添えさせていただいてと。高松市主催の答礼宴ではアットホームなホームパーティ方式で市長さん始め皆様方と、とても和気あいあいに楽しい時間を持つ事が出来ました。特にキャロル・ジョーンズさん、日本に来日された折、着物を記念にいただいておりましたのですが、今回、答礼宴で着物を着る事が出来、とてもハッピーな笑顔でした。すごく喜んでいただけた事は私にとっても、大変うれしかったです。

充実したセント・ピーターズバーグ市での4日間、本当にありがとうございました。お世話になりました各方面の方々にお礼申し上げます。



キャロルさんに着付



老人福祉センターで踊りを披露



滞在中通訳をいただいたキミさんと

明るく、生き生きとしている高齢者の方々

民謡演舞者
安井 冷子

わが家を6月4日午前6時に出発して、セント・ピーターズバーグ市に到着したのは現地時刻で6月4日午後11時過ぎ、13時間の時差があるので2日がかりの旅です。

市役所へ表敬訪問の後、最初の老人福祉施設でピアノ演奏に続いて民謡・民舞を披露した。高松の一合まいたも勿論全員で踊った。観てくださる高齢者の方々の明るく、美しく、生き生きした姿に驚いた。

私は岡山で毎月1回、近くの同様の施設で、人所の方達と民謡を唄ったり踊ったりの交流を続けているが、その人たちのおしゃれ感覚が全く違うのです。イヤリング、ネックレスはみんなが飾り、口紅や化粧も美しい。そして同じ食堂で昼食を共にした時も、ゆっくり時間をかけて談笑しながら食事を楽しんでいる。失礼ながら年齢をたずねると87才、79才。やっぱりここは高齢者の施設だった。

近い将来、自分も年を重ね、このような施設で暮すようになるかもしれないけれど、明るく、美しく老いることを誓った旅だった。



老人福祉センターの入居者の方達と

温かいおもてなしを受けた姉妹都市

民踊演舞者
広瀬 由美子

今回私は、市民親善使節団の一人として参加しました。道中、自己紹介を終え、みなさんと楽しく会話させていただき、友だちになれたこととてもうれしく思っております。

セント・ピーターズバーグでは、市長・議長表敬訪問をして普段見学できない所を見せていただいたり温かくもてなしをしていただきました。

また、老人福祉施設は、とてもきれいで、まるでホテルで生活しているようでした。

入居者のみなさんは、私たちの演技を見て、すばらしい拍手や笑顔を送ってくれて、感動いたしました。

最後に、団長の角田様はじめ事務局の藤本様のおかげを持ちまして無事に役目を果たすことができ、とてもよろこんでいます。

今回は残念ながら参加できなかった松岡先生にこれからも師事し、踊りに精進し頑張っていこうと思っています。どうもありがとうございました。



美しい渓谷 グランドキャニオンにて

子どもの立場を考えてつくられている 小児病院

民踊演舞者
松岡久美子

セント・ピーターズバーグ市は、高松市とよく似た、海に面した緑豊かな市で、大きな木と芝生の庭の整然とした家々がとても印象に残りました。そして、老後はこの市で生活したい人が多いという素敵な所でした。

この度は、市民使節団として民踊で参加しました。老人福祉施設、小児病院、答礼宴、そしてピアでの市制100周年記念式典で、民踊を皆様に見ていただける機会を与えてくださり、感謝しております。

市には3か所老人福祉施設があり、そのうちの1つを訪問しました。その施設は、自分の事はできる、介護が必要、ナースが必要の3段階に分かれていて、自分の事はできる人達は、きちんと化粧をし、おしゃれでイヤリング、ネックレスをつけた素敵なお年寄り達です。その人たちに私たちの踊りを見ていただき、たいへん喜ばれました。

次に小児病院を訪問しました。そこで感じたのは、子どもの立場に立って考えて施設ができています。たとえば、待合室で上を見上げれば、天井近くに小さなレールがあってもちやの電車を走らせて子どもの気持ちを和ませ、また、廊下、待合室、病室、エレベーター横等の壁一面に絵が描いてあり、子どもが不安にならずに治療ができる心遣いが病院全体に感じられました。もちろん、スタッフも笑顔で明るく素敵でした。ここでは、病室にいる子どもたちにも民踊を見てもらうために、踊っている姿をビデオに撮って、病室に流す方法をとりました。

また、入院している子どもを介護する家族のための宿泊施設も完備されて、実に福祉が行き届いていると思いました。そこは、1泊料金も安く、お金の無い人は無料で宿泊でき、さらに施設内の設備は無料で使用できるそうです。善意のある人の寄附、そしてボランティアで成り立っていると聞き、ボランティアという存在の大きさを痛感しました。

高松市主催の答礼宴は、アメリカのホームパーティ形式で堅苦しさはなく、リラックスした中で、三味線の音色に耳を傾け、民踊をすぐそばで見させていただき、リック・ベイカー市長も「一合まいた」の輪に入って一緒に踊り、ほんとなごやかな雰囲気でした。

この親善訪問は、民踊の他に三味線、ピアノ、盆栽の実演もあり、アメリカの方々に日本の文化を披露することにより、あらためて自分自身、日本文化を考える旅行にもなりました。

最後に市制100周年交流会のスタッフの方々、ボランティアで通訳をして下さった方々、私たちに朝早くから夜まで付き合ってください、たいへんお世話になりありがとうございました。

この市民使節訪問により、今後ますます高松市とセント・ピーターズバーグ市が親密な姉妹都市となっていくことを心より願っております。



リック・ベイカー市長と民踊グループ

2メートルの大物クロマツを盆栽に

盆栽技術者
末澤 保

市長や議員の皆様にご送られて元気良く高松を出発、サンフランシスコ～オーランドと長いフライトを終えて、バスにて目的地である姉妹都市のセント・ピーターズバーグ市へ到着、夜遅くなったにも拘わらず大勢の方々のおあついで歓迎を受け、一同感激のままホテルへ。

翌朝、市役所へ市長・議長を表敬訪問し、議場において市長の歓迎の挨拶を受ける。その後、老人福祉施設にて民踊、ピアノ、三味線の披露。施設の皆さんも一緒になって踊りを楽しんだ。そしていよいよ私たちの主要な目的である盆栽の実演を行う為にサンキンガーデンへ向かった。盆栽の材料は現地で準備してくれるとのことであつたが、実際に目にしてびっくり。盆栽とはいえ2m近い大物のクロマツである。パツピ姿に身を替えて、いざ本番。盆栽の見どころ、整姿の方法について説明し、ノコとハサミで背丈80cm位に切り詰める。その後、針金にて誘引して形を整える。現地の盆栽同好会の人たちが集つていたので、質問も専門的で、こちらの話にも、とても熱心に耳を傾けてくれる。約3時間後完成。今後の育成、管理方法の説明をして終わる。大変喜んでいただいたのでひと安心。

その後、各地を案内してもらい、姉妹都市として益々親近感を持つことができた。

振り返ってみると、文化を通じて現地の人たちと国境を越えた交流が出来たので、大変有意義な訪問であつたと思う。同時に団長をはじめとして事務局、団員、現地のボランティアの皆さん他大勢の方々にお世話になり、感謝の念を深めた旅でもあつた。

今後、高松市とセント・ピーターズバーグ市との友好親善が、なお一層深まることを祈りながら帰途に着いた。



ハッピー姿で盆栽実技を披露

緑を大切にする気持は万国共通

盆栽技術者
松田三男
一般参加者
松田多恵

高松市と姉妹都市のセント・ピーターズバーグ市はフロリダ州の西にある。訪れた時の気候は日本の梅雨を思わす程に湿度があり、それが町全体を覆う緑の木々達には快適に見えた。

私は市民団の一員として盆栽を通しての交流を図る事となった。滞在中、2度の実技披露を行い、素材は現地の愛好者からの提供であったが、これがとんでもない新木で、盆栽というよりは植木・庭木に近いものであった。強引に針金をかけたという思いが今でもあるが、観に来てくれた現地の愛好者の熱心さには感服し、改めて盆栽は日本特有の文化の一つであり、世界が関心を示す、誇れるものであると確信した。

しかしながら、彼の地の緑に対する考え方は此方のそれとは少し違ったものではないだろうか。日本では当たり前の、木々の剪定というものは、辞書にないかのような自然流、木々の伸びたいように枝を伸ばして、基本的に手を入れていない。それがまた息を呑むような素晴らしい古木の相を醸し出す樹を生んでいる。その美しさは今でも心に強く残っている。

考え方は違っても緑を大切にする気持ちは万国共通であると信じているし、これからもそう願っている。



サンキンガーデンを見学



熱心な愛好者達に盆栽を説明

スマートで温厚なベイカー市長の歓迎に感謝

一般参加
合 田 洋 子

アメリカ入国の折のチェックには、想像以上で驚きました。国がどれほど、あのテロ事件にショックを受け、テロ対策に国を上げて防衛をしているか、ヘアピン1つ、小さな裁縫道具のはさみさえ、金属探知機がチェックをするのですから。しかし、この厳しい所を通過すると、みな大変友好的で、「シスターズ都市セント・ピーターズバーグ100周年に行くところです。」と言えば、「それはすばらしい。」とみなから握手を求められました。

セント・ピーターズバーグ市では、市長・議長の表敬訪問をしましたが、きちんとした立派な議会で、使節団一人ひとりの名前を呼び記念品を手渡されました。大変友好的な態度に感激いたしました。リック・ベイカー市長は、背が高く2mほどありましたが、スマートでその上、温厚なお顔とお人柄で、みなが写真をいっしょに撮っていただく度に少し前かがみになり、うれしそうに笑われている姿が実に感じが良く、議員にも市民にも信頼されている人格者とお見受けいたしました。また、ピアでの100周年記念式典で、娘のピアノ演奏を一家中で喜んで下さった事には、心から感謝をいたします。

ともあれ、無事に親善使節を終える事が出来ました。

主婦として、1つ心にとまった事がありますが、ピアで大きなケーキをいただきましたが、手のひらに乗るほどに小さく切り分けてもらっているにも関わらず、大変甘くて、どうしようかと思ったほどです。

アメリカでは、朝食のパンに始まり、ケーキも非常に甘いです。甘さをひかえめにしている日本の食生活では考えられないもので、大変驚きました。

老人福祉施設の何百坪もある建物で、エクササイズ室、コンピューター室、図書室とある中でゆったりと暮している穏やかな人たち、そして施設見学を初めから終わりまで案内して下さったヴァージニアさんをはじめ通訳のボランティアの方々、大勢のセント・ピーターズバーグ市の人達と交流が持てた事は、私にとって大きな成果でした。そして、市民親善使節団員の方々との出会いも大切なものとなりました。

長い歳月に、ここまでの友好姉妹都市関係にしてこられた国際交流協会の皆様には、頭が下がります。本当に御苦勞様でした。そして、今回の団長を務められました角田様、大変御世話になりました。

最後に視察団として、参加した広瀬助役をはじめ市議会議員の皆様、少しでも高松を良くしようとの思いで視察のハードスケジュールを立派にこなされている姿を拝見し、高松市民の一人として、心から尊敬し、感謝をいたします。

今後も、セントピーターズバーグ市と高松市が、益々友好姉妹都市として、国際交流が持てますよう心より願っております。



友人になったバージニアさん、クリホードさんと

自分の作品を通して社会とのつながり

一般参加
片山 美代子

姉妹都市セント・ピーターズバーグ市は高松市と同じような気温だと思いましたが、湿気が無く、風があるので暮らしやすいところだと感じました。仕事をリタイアして余生をおくるために、他の州からも老夫婦たちが移住してくるそうです。なるほど、フラットな地形、温暖であること、魚釣りというレジャーを楽しめるところ、治安がいいこと等条件がそろっているとと思いました。

海洋研究所 (Marine Science Center) を視察して印象に残ったことは、食べるための魚ではなく魚釣用の魚のための養殖場があることです。この市周辺の地域 (タンパベイ) はレジャーとして釣りをする人が他の州からも多く訪れ、観光産業として養殖をとらえているのはお国柄なのでしょう。

老人福祉施設 (Westminster Palms Retirement Center) で印象に残ったことは、入所されている方たちが、袋物を制作したり、素敵なレターセット、カード等を作成し販売していることです。誰でもいかなる時でも社会に必要とされているという意識を持つことはとても大切なことです。私が将来施設に入所するならば、何らかの形で生涯働きたいと思っているので、このような老人福祉施設に入所したいと思います。入所されている方のお部屋を訪問させていただきましたが、センス溢れるインテリアでとても素敵なお部屋でした。皆さんおしゃれな装いをしていて私自身見習うところが多々あり、学ぶことばかりでした。施設の屋上にある部屋 (パーティー会場にもなる) からの眺めはとても美しく素晴らしいものでした。(セント・ピーターズバーグ市がとても美しいのです。)

小児医療施設 (All Children's Hospital) では、植物や昆虫と楽しめる公園があり、治療の1つとしてとらえています。また音楽や美術を楽しむことも治療の一環としてとらえていて、専門の教師もいると聞き、素晴らしいと思いました。そして、病棟の近くに患者の家族のための宿泊施設 (Ronald McDonald House) があります。そこの運営システムがボランティアをベースにしていること知り感動しました。

踊り、ピアノ、三味線、盆栽チームが文化交流で今回大いに貢献されました。親善交流で言葉が十分に伝え合えない分、それぞれの文化交流が充分役目を果たし、心と心で深く交流



ボランティアで通訳してくださったスティーブさんと

できたことを実感しました。

親子での参加となり、他の団員の方々にご迷惑をかけないようにと思いつつ参加しましたが、皆さんにいろいろと助けられ、出発してから再び高松に帰ってくるまで、楽しく元気に過ごせました。素晴らしい団員の方々とお会いことができ、姉妹都市でも沢山の出会いがあり、実り多い8日間でした。楽しい思い出がたくさんできた視察旅行となりましたこと感謝の気持ちでいっぱいです。

片山 由利子

お母さんといっしょに参加して多くのことを学びました。アメリカの人と友だちになるために英語を話せるようになりたいと思いました。飛行機の中からアメリカの地形のようすを見ることができました。グランドキャニオンはとても印象に残りました。団長さんがおもしろい人だったので、とても楽しかったです。また行きたいです。



ゆかたを着て記念植樹に参加

著名画家がボランティアで描く 小児病院の廊下の絵

一般参加
陶山 美紗子

「英語なんてぜんぜん喋れないけど大丈夫かしら。」「セント・ピーターズバーグってどんな町だろう。」

海外旅行が初めての私にとって、出発前は不安と期待で一杯でした。

しかし、いざ出発してみると、皆さん大変親切な方ばかりで、最初の不安は一気に吹き飛んでしまいました。

そこで、心に残ったことを少し揚げてみたいと思います。

まず、市長・議長表敬訪問では、非常に温かいおもてなしを受け、特に市役所で朝食を準備いただいたことは、ちょっと驚きでした。

また、特に感心したのは、小児病院訪問の際でした。ここでは、著名な画家がボランティアで描いた絵画が、廊下、天井、エレベーターなどいたるところに掛けられており、子供たちが大いに安らげる雰囲気を醸しておりました。

スタッフも、日本のような白衣やユニフォーム姿ではなく、親しみやすさや暖かさが感じられました。

さらに、親も安く滞在できる宿泊施設が敷地内にあり、ボランティアで運営されていることは、大変素晴らしく、親子が安心して治療を受けるためには、日本でも是非見習って欲しいと思いました。

このほか、ダリ美術館、グラントキャニオン、ラスベガスの夜景など、感動・感激の連続でした。

日本舞踏も三味線も何もできない私で、皆様には色々ご迷惑をかけたことと思いますが、私なりに感じる点は多々あり、大変有意義な使節団参加でした。

関係者の皆様に心からお礼申し上げます。



「サンシャイン・スカイウェイブリッジを背景に」

小さな、小さなおむつに感動

一般参加
高木智子

友人からセント・ピーターズバーグ市の親善使節団に参加しませんかと誘われました。この危険な時に、と思いましたが、好奇心のほうがそれより強く、参加させていただくことにしました。

しかし、説明会に出たとき“シマッタ”と思いました。親善使節団でなく文化使節団だったのです。私はなにも出来ません。でも、セント・ピーターズバーグ市民と何か交流でき、セント・ピーターズバーグ市誕生100周年と、私の大好きなサンクス・ペテルブルグ市300年誕生日を祝う事が出来る“幸せ”を貰ったことに感謝し、参加しました。

セント・ピーターズバーグ市議会の様子、議員さんたちの友好的な態度に高松市との結びつきの深さを感じました。

私がアメリカで一番見てきたいと思ったのは、福祉施設でした。

最初、ウエストミンスター・パーム・リタイヤメントセンターです。日本の有料老人ホームのような施設です。ただ異なるのは、クラブ制で、寄付金で運営されているとかでも入所する時、20万ドルから30万ドルの寄附が必要とか、そして元気な人は、月に1200ドルから1800ドルが必要だとか、部屋の広さは、いろいろあるそうですが、見せてもらったお部屋は、25坪くらいあったと思います。そして一番重い障害があり、全介護の人は一日180ドル必要だとか、でもお金が無くなってもそのまま居られること、死ぬまで介護を受けられること、うらやましいことがたくさんありましたが、入所している人は白人ばかり、介護している人は黒人がたくさんいました。(やはりチョッピリかなしいです。)

次に子供病院です。フロリダ州小児科センターの病院でした。広大な敷地、車でなければ移動できないような広さに、驚かされました。このセンターの中に未熟児専門の病棟がありました。そこで見せられた小さい、小さい紙おむつには感動しました。こんな小さいおむつをする子供が、生きようと頑張っていることに！もう1つはボランティアだけで、運営されているホームです。これは入院している子供たちの親が、泊まる事が出来る施設ですが、泊まった親が何かボランティアしなければならない。いろいろなメーカーから物が寄附され、それが親たちの食材になったり、寝具になったり、物心共に援助されていることです。ボランティアの定着、偉大さ、視野の広さ、感動しました。



新生児のおむつ（左）と未熟児のおむつ（右）

楽しい企画・100周年バースディケーキ

市民親善使節団事務局
藤本 良志美

「1年間に361日は太陽がふりそそぐ」というのがセント・ピーターズバーグ市のキャッチフレーズですが、私たちが着いた夜はかなり強い雨と風に見舞われました。当地では珍しい雨が私達を迎えてくれたのです。

でも、やっぱりサンシャインシティです。からりと晴れた翌日、午前8時からセント・ピーターズバーグ市の市長、議長をはじめ幹部の方々と一緒に市役所で朝食会がはじまりました。いろいろな種類の菓子パンに飲み物、そしてフルーツポンチという簡単なビュッフェ式で、来た人から気軽におしゃべりをしながら食べるという肩の凝らないもので、オープンなアメリカ人気質を感じました。市議会がある日に朝食会があるとのことでした。

また、人口27万人の都市で市議会議員は8人、市議会も議員の仕事（弁護士、銀行家、会社経営など）に差し障りのない午前8時や夕方の7時から開催するというのも興味深いものです。

訪問したパーム・リタイアメント・センター（老人福祉施設）では、到着するとすでにホールには30人ほどの入居者の方々が私達を待ちかねていて、私達の演技に、手拍子を打ったり一緒に歌ったりして、遠くから来た日本文化を大いに楽しまれたようでした。宣教師として日本に数年住んだという老人がなつかしそうに「こんにちは。今日はどうもありがとう」と日本語で話しかけてきたりしました。昼食を入居者の皆さんと一緒にいただきましたが、80歳ぐらいの方でも、ボリュームあるチキン料理をおいしそうに食べていました。やはり元気のもと、食べることだと再認識しました。

セント・ピーターズバーグ市制百周年記念事業が開催されたザ・ピアは、市の中心地にあり、昔はタンパ湾に突き出たただの船着場でしたが、現在では、ウォーターフロント開発をして、船着場以外に、レストランやギフトショップ、水族館などが入っている逆三角形の4階建てのビル、そしてピアの周りで遊ぶペリカンの群れに与える餌を売る売店や楽しい出店があり、市民と観光客で毎日賑わっています。

さて、ザ・ピアで催された100周年記念の昼食会に、ベイカー市長は夫人と子ども2人の家族連れで出席され、気軽に入り口に近い私達のテーブルに座られました。日本では市長は上座と決まっているのに、それを気にしないアメリカ人をほほえましく思いました。そして、ピアノを習い始めたばかりという7歳のお嬢さんが、飛び入りでピアニストと連弾をして興を添えました。

午後1時からの式典のはじまりは、そのユニークさに思わず笑ってしまうような楽しいものでした。それは、セント・ピーターズバーグ市の百歳のバースディケーキのカット式でした。そのケーキは表面に市のマスコット・ペリカンの大きなイラストをカラフルに描いた高さ10センチ、幅70センチ×40センチほどで、音楽と市民の拍手と共に入刀となりました。そのケーキは会場に来ている人みんなに一切れずつ配られます。いくら大きいといってもこのケーキ1個ではみんなに当たらないだろうと心配して見ていると、2個目、3個目と5個目まで同じ大きさのケーキが次々と出てきて、ボランティアの方々と希望する子供達と一緒にカットして、並んで待つ人たちに笑顔で渡していました。なんて楽しく面白いイベントでしょう。

ここで、セント・ピーターズバーグ市での盆栽師たちの活躍も忘れてはなりません。彼等は、

サンキンガーデン（植物園）とザ・ピアで、2回の実技披露を行いました。渡米前に、何度もセント・ピーターズバーグ市の担当者とEメールで盆栽の打ち合わせをしました。予算の関係で、こちらの思う材料が手に入らず思案していると、セント・ピーターズバーグ市内にある個人経営のグリーンセンターから松の木を無料で提供しようとの申し出があり、安心して当地へ行って見てびっくり。用意された松の木は、森の中で育ったままのぼうぼうの大きな松で、わが盆栽師たちとその松との奮闘は相当なもののようにでしたが、滞在中2回の盆栽剪定の実演には、市内の盆栽愛好家の人たちが大勢見学に来てくださり、盆栽についての熱心な質問もありました。剪定したこれらの盆栽が数年後どんな風になっているのか、また皆さんと一緒に見に行きたいものです。

このように、高松市民親善訪問団は、セント・ピーターズバーグ市において、日本文化の一端を披露して、多くのアメリカ人に感動していただきました。また、セント・ピーターズバーグ市百周年式典に参加して市民レベルの国際交流を深めることが出来ました。これを機に、ますます両市の交流が広がることを願っています。

今回の訪問が成功裏に終わることが出来ましたのは、参加団員の皆さんが、和気あいあいの雰囲気を作ってくくださり、ご協力くださったおかげと角田団長と共に心から感謝しております。



セント・ピーターズバーグ市100才の
バースデーケーキ



ベイカー市長、フィsher前市長と共に

四 國 新 聞

2003. 6. 15. 5. 30.

米セ市と文化交流へ

市民親善 高松市長に出発あいさつ

セント・ピーターズバーグ市での交流に意欲を示す市民親善使節団
 〓高松市役所



高松市が姉妹都市の米
 セント・ピーターズバ
 ーク市の市制百周年に合
 わせ、六月に派遣する市
 民親善使節団(角田富雄
 市長が三十日、高松市

役所を訪れ、増田市長
 に出発のあいさつをし
 た。

使節団は、盆栽や民謡
 三味線などを通じて現地
 で交流を図る七人で構
 成。団員は「高松の文化
 を伝えながら相互理解を
 深め、両市の架け橋にな
 りたい」などと決意を披
 露した。

増田市長はセント・ピ
 ーターズバーグ市の節目
 を記念して贈る屋島の絵
 を託した後、「思い出に
 なる旅にしてください」
 と激励した。

使節団は公募した市民
 らでつくる十七人。六月
 四日に出発し、セント・
 ピーターズバーグ市の記
 念式典などに出席した
 後、十一日に帰国する予
 定。

四 國 新 聞

2003. 6. 15. 5. 21

来月、姉妹都市の米セ市へ

高松市が訪問団派遣

高松市は六月四日から
 十一日にかけて、姉妹都市
 の米国セント・ピーター
 ズバーグ市に訪問団を派
 遣する。同市の市制施行
 百周年記念式典への参加
 などを通じ、親善交流を
 深めるのが狙い。高松市

は二〇〇一年十月にも派
 遣を計画していたが、同
 時多発テロの影響で中止
 を余儀なくされており、市
 は四年ぶりとなる米国で
 の再会に期待している。

訪問団は、広報助役を
 団長とする公式代表団八
 人と、公募した市民らで
 つくる親善使節団十九人
 で構成。官民挙げて交流
 できるよう二団体を編成
 した。

現地では式典に参加す
 るほか、市長・市議会議
 長への表敬訪問、記念植

樹も実施。公式代表団は
 サンポート高松事業の参
 考となる湾岸開発の視
 察、親善使節団は伝統芸
 能の披露や盆栽・せん定の
 実演なども行い、行政や
 文化の相互理解を図る。

高松市とセント・ピ
 ーターズバーグ市は一九六
 一年に姉妹都市提携を結
 び、訪問団や高松一高で
 の教師・学生の相互派遣
 などで交流している。

CITY OF ST. PETERSBURG
 One of the Bay

June 16, 2003

Ms. Yoshimi Fujimoto
 Managing Director
 Takamatsu International Association
 11-63, Banzho 1-chome
 Takamatsu-city
 Kagawa 760-0017
 JAPAN

Dear Ms. Fujimoto,

What a pleasure it was to greet you and the citizen delegation to St. Petersburg. Your being here to help celebrate our 100th anniversary was a wonderful addition.

Your pianist, dancers, Shamisen players, and Bonsai masters entertained and delighted our citizens, both young and old. As you know, at Takamatsu's party Friday night, they had me doing the dance you taught our delegation when they were in Takamatsu for the summer festival. I was also delighted when the two musicians showed me the Shamisen after their performance. It is very different from the guitar that I enjoy playing.

Once again, please express my appreciation to all your delegation for sharing with us their time and talents.

Rich Baker
 Mayor

CITY OF ST. PETERSBURG, P.O. BOX 2942 ST. PETERSBURG, FLORIDA 33721 TELEPHONE: (813) 927-7221

セント・ピーターズバーグ市ベイカー市長
 からのお礼状

St. Petersburg Anniversary Celebration Luncheon

Saturday, June 7, 2003
 11:30 a.m.
 Columbia Restaurant at The Pier
 800 Second Ave. NE, Fourth Floor

You and a guest are invited to a luncheon, followed by a
 St. Petersburg 100th Anniversary cake-cutting ceremony and a
 day of entertainment on the first floor of The Pier.

Please RSVP by June 3 to 727-551-3377 or SPAnniversary@stpete.org
 (Additional guests are invited. \$25 adults/\$6 children with prepaid reservations)

SPC Progress Energy Times AMERICA II CORP.

セント・ピーターズバーグ市制百周年記念
 昼食会パーティへの招待状